



働 く
育 て る
暮 ら す

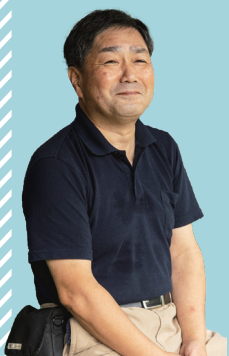
花 卷

移住・定住
GUIDEBOOK

I W A T E
HANAMAKI

ひ と

図 鑑



つな
が
る
ひ
と
が
い
る。
こ
こ
に
い
る。

地に根を張り この土地に生きる。

1

contents

P03 … 花巻市 MAP

P04 … 岩手花巻ひと図鑑

茂庭裕之	……	働く
平賀恒樹	……	働く・育てる
高橋菜摘	……	働く・育てる
土屋昌美	……	育てる・暮らす
高橋朋矢	……	育てる・暮らす
岡居亜優美	……	働く
小山秀人	……	育てる・暮らす
小山里美		
佐藤直人	……	働く・暮らす
高瀬心平	……	働く
高橋典人	……	暮らす
福田一馬	……	働く・育てる・暮らす
塩野夕子	……	暮らす
福島吉隆	……	働く・育てる
菊地央樹	……	育てる・暮らす
瀬川幸子	……	働く・育てる

P34 … 花巻市施策紹介



- 1 円万寺 …………… enmanji
- 2 鹿踊り …………… shishiodori
- 3 早池峰神楽 …… hayachinekagura
- 4 花巻まつり …… hanamakimatsuri
- 5 花巻温泉 ……… hanamakionsen

岩手県花巻市 MAP

宮沢賢治が生まれ育ち、3ヶ所の高速道路のICと新幹線の駅と空港を玄関口とし、多くの温泉や、花巻まつり、早池峰山に観光客を集め、ユネスコ無形文化遺産の神楽を継承し、岩手県内4番目の人口を持つ中核都市日本一の生産量を誇る雑穀や、りんご、ぶどう、野菜、米を生み出す農地がひろがる、空気と水がおいしい自然豊かなまち花巻はほかにも魅力がたっぷり。



R5.9月現在

Spring

春

Summer

夏

Fall

秋

Winter

冬

3月の雪融けのあと、4月には梅や桜、コブシなどたくさんの花が一斉に咲き、爆発的な春が来ます。GW明けにはりんごの花が満開となり、田植えの季節到来を知らせます。

5月中旬から新緑の季節。7月～8月中旬の真夏の最高気温は30度を超えますが、湿度が低く爽やかで朝晩は肌寒いほどです。旧盆が過ぎると急に涼しくなってきます。

9月半ばの花巻、石鳥谷、東和の祭りが終わると稲刈りが始まり、一気に秋の空気に包まれます。10月中旬からは紅葉が始まり、11月に入ると雪の便りがやってきます。

一番寒い時期は1月～2月。最低気温が氷点下2桁の日や1日を通して氷点下の真冬日もあります。雪は降っても30cmほどですが、寒さで融けず道路が凍ります。

ACCESS

高速道路

川口JCT	約5時間 [476km]	花巻南IC
仙台宮城	約2時間 [145km]	
青森	約2時間30分 [210km]	

新幹線

東京	約2時間40分	新花巻駅
仙台	約1時間	
青森	約1時間20分	

飛行機

札幌	約55分	いわて花巻空港
新千歳空港		
名古屋	約1時間10分	
小牧空港		
大阪	約1時間20分	
伊丹空港		
福岡	約2時間	



地方から新しいものを生み出す楽しさ



スターブリッジいわて株式会社
代表取締役

茂庭裕之さん

process

将来帰郷すべく
スキルを身につけろ

盛岡に生まれた茂庭さんが花巻で暮らしたのは、小学校5年から高校卒業までの8年間。花巻の実家を出て仙台の大学へ進学するときは、まだ具体的な将来の展望は描いていなかったが、就職活動の時に将来花巻へ帰ろうと思ったのだという。

就職活動にあたり「どう生きていくか」「どう働くか」を考えた結果、30歳までに帰郷して地元で貢献したいと考え、それまでの間将来花巻で仕事をする時に最も地元で生かせるスキルを得るべく東京に行くことを決断したとのこと。

これからの時代で絶対に必要だと思われるITスキルと、そして問題解決能力を身に付ける必要があると考え、両方を習得できるITコンサルティングの仕事に就くことを選んだという。



Profile

茂庭裕之さん

- 1984年盛岡市生まれ。
- スターブリッジいわて株式会社
IWATE STAR BRAND 実店舗
“いわてのギフト”
岩手県花巻市松園町1丁目6-1

2018年取材（内容は取材当時の情報）



就職して4年目に東京で東日本大震災を経験した。この先岩手では、地元根付いた産業を発展させて経済を回し、雇用を生んでいくことが今まで以上に必要になる。自分もそれに貢献することはできないかと考え、震災翌年に会社を退職して帰郷した。震災直後、東京にいながらも故郷に何かしら支援できないかと考えて岩手のものをインターネットで探してみたが、地元では有名な商品でも、その魅力や作り手のこだわりがうまく発信されていない、購入しづらいと感じた。そこで「ネットを活用して多くの人に岩手の良品の魅力を発信し、届けやすい仕組みを創ろう」と考え、花巻で同社を立ち上げたのだった。

現在は当初の計画通り地元企業へのITコンサルティングの仕事と、ネットショップや花巻の実店舗・首都圏への卸を含めた岩手の良品販売、2つの事業を並行して行っている。

process

震災をきっかけに見えてきた道

ITコンサルティングの事業は、地元企業が抱えるコスト削減や売上増進等の経営課題に対してITを用いて解決策を提供すること。販売の事業とは一見全く違う分野の事業に思えるが、茂庭さんの中では根の部分繋がっているとのこと。会社のビジョンとして「岩手の産業の課題をITとリアル両面の両面からビジネスで解決して雇用を生む」掲げており、「ITコンサルティング」は地元企業が抱える課題に対して直接的に解決策を提示し、「販売」においては生産者が抱える課題（発信・流通・商品開発・パッケージング等）に対して、販売する当事者として解決することに挑戦している。

「その2つの事業で地元貢献して、多くの雇用を生み出したいと思っています。それが今の一番の目標です」

process

2つの事業は根が繋がっている

いわてスターブランド
【IWATE STAR BRAND】岩手の良いもの、ずっと使い続けたい、大切な人に贈りたくなるものを厳選したショッピングサイト
(左) 実店舗 (右) WEB



<http://iwate-starbrand.com/>



process

花巻で働くことが
どんどん
楽しくなっている

高校時代など、自分が「消費する側」であつた頃には感じるものが少なかった花巻の面白さを、事業の創り手となった今実感しているという茂庭さん。「いま花巻は若い人が集まり、いい雰囲気になってきています」。花巻に人が集まり、若いプレイヤーたちが集まり始めたことで、様々な機会が増え、可能性も広がってきている。「待っている何も始まりません。花巻に、新しいものを生み出そうと挑戦する人たちが、広い意味でのクリエイターがもっともっと集まって欲しいと思います」と言う。

「行政もチャレンジする若い人を手放しで応援してくれているので、どんどん花巻に来て欲しいですね。私もそういう人と仕事がしたいです」。

〈 茂庭さん利用 〉

花巻市施策

● 花巻市起業化支援センター



他にも、花巻街歩き散歩マガジン「マチココ」などを含め地元のクリエイターや地元企業との関わりから、茂庭さんはプレイヤーの輪と様々な可能性を広げてくれる存在となっている。



『大ヒット商品
「ソフトクリームストラップ」
地元マルカンビル再開を願って販売したこの商品は、10段のソフトクリーム、地元人は箸で食べる、コーンの文字など細部まで忠実に再現されている。

『どんまいプロジェクト』の照井さん

『どんまいプロジェクト』の小原さん

『ガッツ』こと平賀さん



「たふんとなく農業」から、
人の営みが感じられる「暮らし」へ



新規就農・農家カフェオーナー
平賀恒樹さん

process

農業への
漠然とした興味

花巻で生まれ育った小さい頃から、
細々と野菜を作っていた祖母の手伝いを
「案外面白い」と思っていた平賀さんだっ
たが、周囲から「それじゃ食べていけな
いんじゃないか」と言われたり、大学を
休学して行った西表島のサトウキビ収穫
アルバイトの際に「農業はきつくて無理」
とあったり、それほど強い意思を持ち続
けて農業の道に踏み出したというわけは
なさそうだった。

しかし帰郷後、友人からの紹介で手伝
いに行っていた専業農家の仕事を通じ、「や
り方次第で仕事にできそう」という思い
に変わったとのこと。その後も手伝いの
中で野菜づくりを学びつつ、きゅうりを
手始めに自分でも作物を作り始めたのが
スタートライン。結婚を挟んでそんな生
活を10年続けた後、中古の家を買うこと
になった。その広さから将来の農家カ
フェを夢見始めた頃が大きなターニング
ポイントだったようだ。



Profile

平賀恒樹さん
● 1977年花巻市生まれ。
● ファームプラス
岩手県花巻市上根子字下田60-2

2018年取材（内容は取材当時の情報）

process

寄り道の中から
見えてきた

大学時代に休学して訪れたのは西表島
だけではなかった。アルバイトでお金を
貯めて、本人が言う「自分探しの旅」に
アメリカへも2ヶ月半行っているし、大
学に復学した後も4年生になる前の春休
みにメキシコへも2ヶ月行ってきた。大
学に通いながらバーでアルバイトをした
経験から、卒業後帰郷してからまずは接
客を学ぼうと、洋服屋にも3年半勤めて
いる。農家の手伝いを始めるまでは、あ
る意味寄り道だらけの歩みだった。大学
を卒業した後に帰郷したのも、実は当時
から付き合っていた中学時代の同級生の
奥様からの希望だったらしい。

しかし、様々な土地を歩き、流れのまま
いろいろなことを経験しているうち、徐々
に「農業」に方向性が定まってきたのだと
感じる。バーや洋服店での接客もだが、農
家の手伝いをしていた頃、同時に花巻市内
のレストランでアルバイトした経験も今の
カフェ経営に生きている。

寄り道しながら常に面白いと思った方
向、より興味を感じた方向に歩みつつ、経
験をうまく生かしながら、今も新しい道を
発見し続けている。

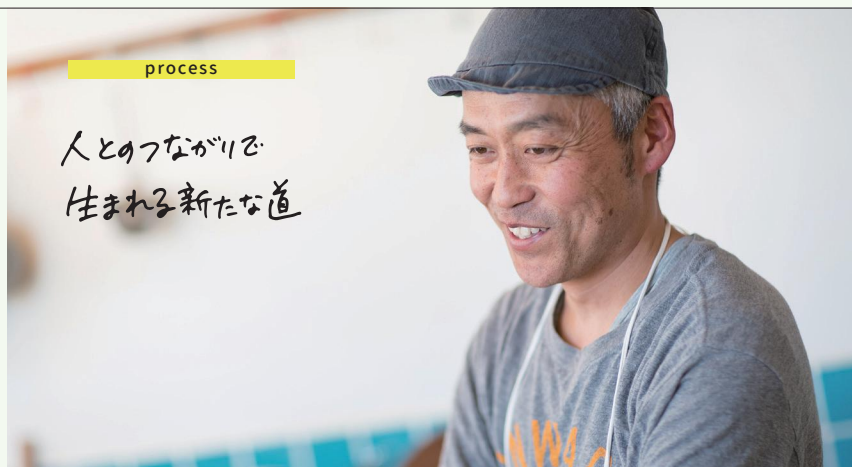
▼「無添加ドレッシング」
▼「どんまい ポン菓子」
都内でも販売、地元でも
大人気商品！



収穫したての野菜で作る
メニューはどれも絶品！
▲「タコライス」

process

人とのつながりで
生まれる新たな道



平賀さんと話していると、熱い情熱を感じ
るというより、肩の力が抜けて癒しを感
じる。それが新たな人とのつながりを生
み、新たな道を生み出してきた。現在、自
作の野菜を使って一緒にオリジナルドレ
ッシングを作っている「どんまいプロジェクト」
代表の小原努さんと事務局長の照井健
二さんとのつながりもそのひとつ。誘われ
るまま花巻4Hクラブ（農業青年クラブ）
へ入ったり、どんまいプロジェクトとして
商品開発や地元温泉ホテルと「朝」はんぷ
プロジェクトを企画したりしてきた。
クラウドファンディングを使って自宅に
オープンさせた農家カフェでお客様との
つながりからドレッシングや米菓子「どん
まい」の新たな販路を開拓もでき、どん
まいの仲間との新しい企画も生まれつつ
ある。「面白いから仲間が集まる」「面白い
からやってみる」というスタンスがまた新
しい出会いを生んでいる。

process

二二には
「豊かさ」「暮らし」
がある

平賀さん自身やどんまいプロジェクトに
は、よくあるようなビジネスプランや厳密
な事業計画の存在は見えない。ビジネスの
場面で語られる「効率」とか「利益性」ば
かり追い求めているわけではないからだ。
味噌づくりワークショップ開催も、都市部
からの修学旅行生やグリーンツーリズムの
方々を農家体験として受け入れているのも
ビジネスではない。たくさんの人たちに豊
かな農家の暮らしを知って欲しいからだ
という。

いつも家族と一緒に、マイペースな生活
を大切に楽しみながら、ゆっくり、しか
し着実に歩みを進める平賀さん。

「この環境で一緒に子育てできる人これ
からもっと繋がりたいですね。ここにある
豊かさを感じてもらいたい。ここでは人の
営みや暮らしが実感できると思います」



〈 平賀さん利用 〉

花巻市施策

- 花巻市起業化支援センター
- 第3子以降保育料負担軽減補助金
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業



PCひとつあれば、

どこでも仕事ができる。

仕事も子育ても。 花巻には支えてくれる人がたくさんいる

働 く
育 てる

HITOZUKAN

process

デザインは
人の想いを
表現すること

フリーグラフィックデザイナー
高橋菜摘さん

たくさんの企業やお店、個人のクライアントに頼られる売れっ子デザイナーフリーランスの高橋さん。週末は子どもとの時間を大切にしながら、昼間は打ち合わせに飛び回り、子供達が寝た後はPCに向かって作業しながら精神的な日々を送っている。とはいえお金のためにがむしゃらになっているわけではない。町のために、人々のためになる仕事なら収入度外視で引き受けることも。

コデザインをする上で大切にしたいのは、人の想いを想いで繋ぐこと。カタチにさせてもらったものが伝えたい人にちゃんと届いて欲しいんです。だからそのでのやりとりでは伝わらないちょっとした表情や、ニュアンスも見逃さないように、クライアントさんには必ずお会いしてお話を伺うようにしています。特に雑談から内面から溢れてくるものをキャッチして、デザインで表現できたかなと心がけています。」

そんな高橋さんだからこそこ次から次に人がつながり、仕事も舞い込んでくる。



Profile

高橋菜摘さん
●1977年花巻市生まれ。
●723DESIGN
722nattsu@gmail.com

2018年取材（内容は取材当時の情報）



【2017 岩手 ADC 賞入選】
花巻のランドマークであるマルカン百貨店（当時）。市民のいこいの場であった46年の歴史とともにお客さんや従業員の笑顔を綴った1冊。

そんな高橋さんだが、実はデザインを専門的に学んできたり、仕事として経験してきたわけではない。盛岡の高校卒業後は短大で保育士の資格を取り、結婚して西和賀町に住んでからは婚家の仕事を手伝っていた。しかしそんな中デザインとの縁ができたという。西和賀町の仲間たちと一緒に、まちづくりの一環としてチラシやポスター作成に携わったとのこと。

離婚後花巻に移住してきてからも、イベント主催者をデザインで手伝う仕事を通じて知識やスキルを磨いてきた。しかし子どもを抱えながら仕事も忙しく、なかなか子どもたちとの時間を持ってない生活だったことに疑問を持ち、まったく見込みを持たないまま辞めて独立したのは2016年春。花巻に来て2年が経っていた。

ちょうど閉店二コースが世間を騒がせていた花巻のマルカン百貨店の食堂存続のため、寄付金付きの写真集を考えついて作ったのを手始めに、ひとつひとつ手探りでフリーデザイナーの道を切り開いてきた。

process

子どものために
フリー道へ

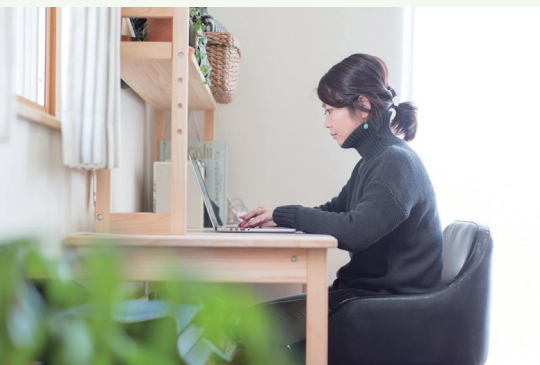


西和賀でのまちづくりや、マルカン存続応援に携わってきた経験から、まちづくり、町の活性化につながる仕事は今も多く、また自分からも積極的に関与する。「離婚した後花巻に来たのも、子どもの頃近所の人たちに可愛がってもらったりして、人の温かさを覚えていたからです。西和賀にいた頃も、両親がいたこともあって花巻にはよく来ていました。子どもの教育上も、少しは都会っぽいところも経験させたかったし（笑）。だから花巻のまちにも役に立ちたいのです」

そんな高橋さんだから、独立してからの人脈もあつという間に広がった。それと比べると例のように仕事の幅や量も。盛岡にはたくさんいるデザイナーやカメラマンなどのクリエイターも花巻周辺にはあまりいない。数少ないからこそクリエイターたちとも容易につながることができる。まちづくりのキーマンやクリエイターたちとのつながりが自分の支えにもなる。

process

人とのつながりが
支えになる



「シングル世帯の人たちって普通にたくさんいますよね。そんな人たちにも是非花巻に来て欲しい。地域での子育てもここならできます。市の支援もとても助かっているし、支えてくれる人たちもたくさんいます。ひとり親世帯だけど、ひとりだと思ったことないです。そして同じようなシングル同士のコミュニティも作れたらなっと思っています。この先必要になってくることだと思っから」

支えてもらい、自らもたくさんの人を支えながら、高橋さんは今日も笑顔で走り続ける。

process

シングルの
コミュニティを



〈 高橋さん利用 〉

花巻市施策

- 児童手当
- 児童扶養手当
- 高校生までの医療費助成事業
- ひとり親家庭医療費助成事業
- 保育料無料
- 就学児童教材助成



異文化交流に関心のある人こそ 花巻を選んでほしい

育てる
暮らす

HITOZUKAN

process

昔から変わらず
懐かしくて
あったか町・花巻

土屋昌美さん

「花巻はたまに来ていたんですが、ほかの街と比べても当時から変わっていないという印象で、懐かしさを感じましたね。引っ越してきた当初は近所のスーパーに子どもを連れてよく出かけていたんですが、店員さんが親切にしてくれたのがうれしかったです。ご近所の方々と仲良くしてもらっています。子育てという視点で見ても、生活しやすい街ですね。公園が多くて子どもと遊べる場所がいっぱいありますし、通学路にいる見守り隊の方々の、子どもたちへの眼差しもあたたかいんですよ。」



バイリンガル教育

生徒の母語を育てていくこと、生徒に第二言語を習得させること、母語と第二言語を用いた教科教育を行うこと、という三つの条件を同時に満たした第二言語習得のための教育方法のことである。

Profile

土屋昌美さん
●1972年仙台市生まれ。●宮城県内で公務員として勤務していた時に、石巻市出身のご主人と出会い、結婚。

2018年取材（内容は取材当時の情報）



土屋さんにとって初めてのお子さんが双子。それに加えて新生活というのは少々大変な状況のように見えるが、土屋さんは持ち前の明るさで地域にとびこみ、花巻市の子育て支援ネットワーク「ファミリー・サポート・センター」(通称、ファミサポ)など、市が提供する子育て支援サービスを活用している。

ファミサポは、子育てのお手伝いをしてほしい人(おねがい会員)と、子育てのお手伝いをしたい人(あずかり会員)からなる、事前登録が必要な会員制の子育て支援の仕組みで、両者のマッチングは、それぞれの要望や経験をもとにセンタースタッフが、提案する形になっている。利用料金は、時間帯にもよるが、一時間500円前後。

process

ファミリーサポートを活用し、仕事と子育てサークルをスタート



「一時保育も考えましたが、ふたり一緒に預けられる空きがなくて、仙台南の母親に頼ることもありました。そんな時に花巻市のウェブサイトで知った子育て支援センターに毎日のように通っていたのですが、そこには保育士の資格を持つスタッフさんもいて、子どもを自由に遊ばせながら、親の話を聞いてくれるのが助かりました。そこがファミサポの窓口でもありました。最初は知らない人に預けることには躊躇もあったのですが、最初に紹介された方がとてもよくしてくださって、今も時々お願いしています。」

子育て支援制度を上手に活用して自分の時間ができたことで、土屋さんは幼児教育アドバイザーという仕事をスタートさせたほか、双子ならではの苦労や喜びを分かち合う、任意団体「花巻ふたごサークル(twins)」というサークルを友人らと立ちあげた。サークルでは定期的に会を開いて、花巻市内外から20組ほどの親子が集うという。

双子を同時に預かってくれる方がなかなかいない中、ニコニコ預かってくれるのは、本当にこころの支えになります！
子育てのアドバイスもとっても嬉しい！



process

花巻を異文化交流の
活発な街に

幼児教育アドバイザーという仕事柄、幼少期の情操教育に関心の高い土屋さん。花巻は新幹線、高速自動車道、そして台湾からのチャーター便を持つ空港があるなど、外からのアクセスがよいという交通事情を活かし、こんな方たちと出会いたいと考えている。

「花巻は交通の便がいいので、異文化交流を活発にする可能性のある街だと思うんです。前職の関係でバイリンガル教育に関心があったのですが、先日行った安比高原スキー場での外国人スタッフの多さに驚きました。それだけたくさんのお客が来ているということですね。これからの社会、仕事を考えると、小さい頃から英語に慣れ親しんでいれば、苦勞せずに話せるようになると思いますし、花巻で暮らしていたとしても仕事の選択肢は広がると思うんです。その入り口のひとつとして、バイリンガル教育に関心のある方々が増えてつながることで、外国語を話せる子どもたちをもっと増やすことができないかなと思います。」

〈 土屋さん利用 〉

花巻市施策

- こんにちは赤ちゃん訪問と子育て相談
- 地域子育て支援センター
- はなまきファミリー・サポート・センター
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業



若い子育て世代とつながって 花巻暮らしをさらに楽しみたい

育てる
暮らす

HITOUZUKAN

process

旅するような暮らしから
花巻に移住を
決めた理由

高橋朋矢さん

高橋さんご一家は、朋矢さんと志保さんご夫婦に、小6、小1、5歳の3人のお子さんがいる5人家族。
ふたりとも20代の頃は旅するように、仕事で各地を転々としていたが、たまたま岐阜県の同じ職場で出会い、結婚。工場の技術職である朋矢さんの仕事の都合で、その後も愛知県、宮城県など各地を転々とする中で、偶然にも花巻市内の会社に仕事が決まったのが2016年。この年の4月に、花巻に移り住んだ。現在の自宅は空き家バンクを通じて購入した一軒家。なぜ花巻を選んだのか理由を聞いた。
朋矢さん「生活する場所としては花巻を含む複数の地域を検討していて、最初は賃貸物件も探していましたが、花巻市役所で空き家バンクのことを教えてもらいました。どうせなら自分たちの手でリフォームしたいと思っていたのですが、花巻市の場合はリフォーム費用や家具・家電の買い替えにも補助が出るということを知り、それが決め手になりました。」
この日訪ねた自宅は築35年ほど。もともと3DKだった間取りを3LDKに改装していた。リフォームは夫婦2人で取り組んでおり、志保さんは電気工事士の資格も勉強中で、「まだまだリフォームではやりたいことがあって」と楽しそうな様子。



Profile

高橋朋矢さん

- 1978年仙台市生まれ。
- 小3で滝沢村（現滝沢市）へ。仙台の大学卒業後、仙台市、箱根町、甲府市などで接客業務に従事していた。志保さんは1978年宮城県石巻市出身。

2018年取材（内容は取材当時の情報）

高橋さんたちのように、古さに手を加え、不便さを快適にしていくなかでセンスがあれば、花巻市の空き家バンクや補助は魅力的な制度。「あと10年はこの家に住みたい」と話すふたりに、これからの花巻に期待することを伺った。

志保さん「図書館が充実するといですね。市内の図書館は地区ごとに点在している分、それぞれの規模が小さくて、本が少ないのがネックです。図書館の整備について花巻市がほかの地域の視察に行っていると知ったので、これからの動きに期待しています。」

朋矢さん「よく夫婦でカフェめぐりやランチに出かけるんですが、気軽に入れるところがもっと増えるといいなと思いますし、そういう、出かけたくなる場所の情報も手軽にわかるといいなと思います。」

process

未来の花巻に
期待する



独身時代も含めると、複数の地域で生活した経験を持つ高橋さん夫婦。ほかの街と比較した花巻の印象、そして、どんな人に花巻に移住してほしいのだろうか。

志保さん「うちの近所は70代、80代の方が多くて、子どもがいる家が珍しいので、かわいがっていただいています。このあたりの子ども会に、自分たちで一から家建てている同世代のご家族がいるんですね。そういうちょっと面白いことをしている方ともつながりたいですし、若い子育て世代がもっと増えてくれるといいなと思います。」

朋矢さん「冬場の雪だとか交通手段とか、生活の利便さや快適さでいえば、前に住んでいた仙台にはかないませんが、最低限の必需品は手に入るコンパクトな街ですね。子連れで出かける場所もたくさんありますから、子どもにとってもいい環境だと思います。若い子育て世代にこそ、花巻をすすめたいですね。」

process

花巻は
若い子育て世代にこそ
すすめたい



▲ 間取りや家具、手作りの小物からも、リフォームを楽しんでしていることが伝わってくる。

作ってもらった
わたしの秘密の『おへや♡』

〈 高橋さん利用 〉

花巻市施策

- 空き家バンク利用者への費用助成制度
- 第3子以降保育料負担軽減補助金
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業



花屋から、移住を機に農業者へ ～ 食べる花から飾り花までを牛がけする ～

働く

HITOUZUKAN

process

花との縁は
子どもの頃から

「雨上がりで、足首が埋まるぐらいぬかるんでいるんですよ。長靴必要ですよ」と笑う岡居さんに、「自宅の隣の畑を案内してもらった。長靴姿がよく似合う。都会の大手フラワーストップで店長をしていたという、かつての姿は想像できないが、夏の日差しの下での岡居さんは本当に楽しそうだ。」

もともと家族も生け花の先生だったり、親戚が花屋さんだったりと、花々に囲まれて育ったこともあり、幼い頃から花屋さんになることが夢だった。高校時代のアルバイトも花屋さん。もうひとつ興味があったジュエリー制作の専門学校は出たものの、卒業後も長くフラワーストップに勤めていたという。

ファーマーズフロアリスト
岡居亜優美さん

花巻空港そばの「自宅隣にある岡居さんの畑は、多様な花々が群生している。食用のため除草剤を使わないので、さながら自然の花畑だ。」



▶ くるみ籠



Profile

岡居亜優美さん
● 1978年神奈川県座間市生まれ。友人の紹介で花巻市石鳥谷町出身のご主人と知り合っており、2015年に結婚を機に移住。
● Les Racines (レ・ラシーヌ)
岩手県花巻市石鳥谷町（※ 予約制）

2019年取材（内容は取材当時の情報）



フラワーショップでマネージャーとして切り盛りできるまでになるには苦勞の連続だったとのこと。それでも店舗をひとつ任せられ、忙しい毎日を送っていたある日、同僚を介してご主人と出会うことになる。もともとご両親も関西や九州の出身で、日本の方が身近だったという岡居さん。ご主人と付き合うようになり、初めて東北、岩手にやってきて、結婚を機に石鳥谷のご主人の実家に住み始めた。

「抵抗はなかったですよ。遊びに来た時にひと通り四季を経験したし、旅が好きだったので、知らない土地には興味津々でしたから。なにしろ星がきれいで、山がきれいで、ひとりで感激してました（笑。山に囲まれた景色はあまり経験ありませんでした。よく漫画で見る形の虹も初めて見て感激しましたね」

process

結婚を機に。
未知の花巻へ

花巻に来てすぐ花作りに誘われたそう。大変だと聞いていたのが最初は「私にはお花を育てるなんて無理だろうな」と思っていたそうだが、そのうち90歳の義理の曾祖母などのアドバイスにより土作りから始め、1年後にはエディブルフラワーを作り始めた。

エディブルフラワーは食べる花。サラダやスイーツなどに使うと料理の彩りとして重宝されるし、「食べられるブーケ」などは話題性もある。今では季節ごとにさまざまな花を首都圏方面にも出荷したり、自ら東京でイベント出店したり、自営業のご主人にも手伝ってもらいながらファーマーズフロリストとして活躍中だ。

もちろん今までの経験を活かしてフラワーアレンジメントのワークショップを開催したり、捨てられがちな規格外の花を仕入れ、ジュエリー製作経験を活かして、ハーパーウムなど花と組み合わせた雑貨なども作って販売したり、花がこ作りなども行なっている。

process

花作りから
とんとん
仕事が増える



process

目指したのは
「人が集まる農園」



花巻市の農政課からの呼びかけによって結成された「農花（のうか）アグリウィリーノ」にも参加、2019年からは市から独立して単独組織となった農業女子でイベント参加を一緒に行なったりしている。緩い協同組合のような組織だが、そこで仲間も広がっている。初年度は田んぼの脇で275種の花を育てたそうだが、こぼれた種から自由に芽が出、雑草と共に育つ自然栽培になっている。今後、畑の一角に小屋を建て、ワークショップを行ったり、ここで採れたハーブを使ったお茶を提供したりしたいとのこと。

「家族でお花を買いに来てもらえるようになるというのですね。エディブルフラワーは食べるものなので無農薬ですし、お子さんも遊びに来てもらえれば、今はそんな目標があります」

〈 岡居さん利用 〉

花巻市施策

○ 新規就農者育成総合対策
（経営開始資金）

藁をなわなから作った「正月飾り」
岡居さん手づくり！



パパ、ママに似て、
3歳のお姉ちゃんも1歳の弟くんも
美人さんとイケメンくんで活発。
スポーツ好きのDNAで
将来は高身長になる？

子育てするなら、人が温かい花巻で ～ニガ子ども達のふるさと～

育てる
暮らす

HITOUZUKAN

process

花巻との縁は
飲み屋から

小山秀人さん
小山里美さん

秋田県から富士大学に入学が決まったものの、はじめは岩手県、それも花巻にある大学とは知らなかったという。「富士」という名前がついていたので、関東の方の大学かと思ってました(笑)」
しかし花巻という街になじむのに時間はかからなかった。部活の仲間と週に2度、3度通う馴染みの飲み屋ができ、人の繋がりができたことが大きかったそうだ。
「結婚後一時は店の2階のアパートに住むことを考えたほどでした。そうならいたら店というよりほぼ自宅ですね(笑)」



『富士大時代の思い出写真』
大学生活を通じて、
どんどん花巻を好きになっていった

Profile

小山秀人さん
●1989年秋田県湯沢市生まれ。バスケットボール部の特待生として富士大に入学して花巻へ。
小山里美さん
●1989年秋田県協和町生まれ。秀人さん同様バスケットボール部特待生で富士大入学。大学同級生同士で付き合い始め卒業2年後に結婚。

2019年取材（内容は取材当時の情報）

秀人さんは地元でも就職活動をしていたというが、結局決まったのは北上市のスーパーマーケット。里美さんは卒業して実家に帰っていたというが、2年後秀人さんとの結婚でまた岩手へやって来た。結婚当初は別のまちに居を構えたのだという。

「でもなんか、同じアパート内でも付き合いがないというか、人間関係が希薄で。大学時代の馴染みの飲み屋もあるのですが、結局花巻にまた引っ越して来たのでした」

引っ越してきて、彼らは花巻人の温かさに触れることになる。

「近所のおじいちゃんおばあちゃん達も声をかけて来てくれるし、野菜とかりんごとかたくさんもらったりして温かいんですよ。夫は職場の仲間がいるけど、私は知人も少なかったから、こどもセンターでも移住して来た人たちと知り合って情報交換ができた。」（里美さん）

住みやすさは人と人の関係だと2人は強調する。

process

花巻の人の
温かさ



2019年3月、花巻市の市街地活性化事業により建築された、子育て世帯向け地域優良賃貸住宅が完成した。場所は目抜き通り裏の仲町。小山さん夫妻は早速入居を申し込み、まち中に住み始めた。

「ここに住んでいるのはみんな子どもを育てている人ばかりなので、いろいろ話したり、付き合いがあって楽しいですよ。地域の人も『子どもが増えた』と喜んでくれています」

富士大学入学と同時に花巻へやってきた2人だが、在学中はバスケット部のリーグ戦などで、実は花巻まつりをほとんど知らないのだそうだ。市街地に住んだことで、今度はそれも楽しみと笑顔を見せた。

「窓の外は昔ながらの花巻のまちですが、そんな花巻がいま若い人たちの力でどんどん変わってきている。その新しい波にも乗りたいですね。都会じゃなく、花巻だからこのまちの暮らしを楽しみたいです」

process

市街地に住んで
まちに溶け込む

秀人さんは仕事のかたわら、育児に興味あるパパ達のコミュニティづくりに取り組んでいる。

「どうしてもワンオペ育児になりがちだし、移住してきていて知人が少ない人たちもいると思うので、お父さん同士仲良くなればファミリーで付き合いができるんじゃないかと思ったんです」

こどもセンターを通じ、ポスターやチラシを使ってチームnicoというサークルを作り、家族同士で泊まりに行ったりしているのだという。

「子どもが幼稚園とかに入るとママ同士のつながりもできるのですが、それまでは孤立しがちなのもっと輪を広げたいと思っています。ここが子ども達のふるさtoになるんですね」

子どもはコミュニティの中で育つのが理想。移住してきた花巻で、小山さん夫妻は子ども達のためにも、そんな地域づくりを目指す。

process

育児パパの
コミュニティを
作りたい



〈 小山さん利用 〉

花巻市施策

- 子育て世帯向け地域優良賃貸住宅
- 地域子育て支援センター
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業



ワインは農産物 ニッぽらではのワインを

働く
暮らす

HITOZUKAN

大迫佐藤葡萄園オーナー
佐藤直人さん

process

ぶどうの里大迫で
ワインに特化した
ぶどうを栽培

大迫のまちを見下ろす高い丘の一角に大迫佐藤葡萄園の畑はある。栽培しているのは生食用が少しあるだけで、あとはワイン用の品種ツヴァイゲルトレーベだ。
「実は農業に興味があるわけじゃないんですよ。とにかくワインを作りたくてぶどうを栽培しています」と笑いながら話すのは佐藤直人さん。ツヴァイゲルトレーベも、日本ではここ大迫だけで栽培されるロースラーやラタイも、オーストリア固有のワイン用品種だ。大迫町が花巻市との合併前からオーストリアのベルンドルフと姉妹都市になっている関係で、この独特の品種が大迫にやってきた。
戦後すぐに、初の公選で就任した国分謙吉岩手県知事が「大迫はフランスのワイン産地ボルドーに似ている」とぶどう栽培を奨励。それ以来大迫はぶどうやワインの産地となっている。その大迫にやってきて、ワインを作るためのぶどう農家として2017年に就農したのが佐藤直人さんだ。



Profile

佐藤直人さん

●1961年花巻市生まれ。

●大迫佐藤葡萄園

岩手県花巻市大迫町大迫第3地割114-3

2020年取材（内容は取材当時の情報）

process

ワインと出会い 巡り巡り 花巻へ

佐藤さんはもともと花巻市の出身。花巻北高卒業後に千葉大工学部へ進学し、高校の頃からの目標通り医療機器メーカーのエンジニアになった。

就職後、ベルギーへ赴任しヨーロッパ各地を出張で訪れた佐藤さんは、そこでワインに出会う。同地では、ランチミーティングの時も当たり前のようにテーブルの上にワインがデキャンタで置かれているのだという。ベルギー赴任中にワインに魅せられた佐藤さんは、そのうち異動したアメリカで更にワインにはまることになる。ワイナリーが多いカリフォルニアに休みのたびに通ったりもしたそうだ。

2012年末に日本に帰ってきてから、自分でもぶどうを栽培してワインを作ろうと、当時住んでいた静岡の近くである山梨や長野に行ってみたりしたとのこと。「60歳前には会社を退職してぶどう農家やろう」と思っていました。55歳のそんな時にまた転勤の話があって、行ってしまうと遅くなるかなと思っていましたよ」



そんな時に出会ったのが花巻市のグリーンツーリズムだった。山梨や長野では土地を買い、施設を整備した上で4、5年後まで収穫を待たなければならぬ。しかし花巻ではもう実をつけている木が並んだぶどう畑をすぐに借りられる。考えた挙句、2016年の1年間会社を退職して大迫に移り住み、ぶどう栽培を畑の持ち主に習ったのだという。2016年末には退職して完全移住。2017年シーズンからは独立してぶどう農家デビューとなった。

「両親はもういないし、実家も無くなったし、本当は花巻に帰ってくるつもりはなかったんですけどね。偶然の出会いです」



process

ワインは農産物 こならではの ワインを作子



海外赴任が多かった佐藤さん、そのすべてが単身赴任だったという。奥様はご自分の仕事の関係で、現在も自宅のある静岡県に在住、佐藤さんはひとりで大迫に移住してきた。とはいえ奥様も佐藤さんのワインづくりを応援しているのだそう。

「スリーベアーズというブランドの命名も家内です。家にお気に入りのティンベアのぬいぐるみが3匹いるので（笑）」

これまでワイン醸造を町内の高橋葡萄園に依頼していた佐藤さんは、いま自らのワイナリーを立ち上げるべく準備中だ。2020年中には建屋を造り、来シーズンから稼働させる予定とのこと。そこでできるワインを首都圏で販売する拠点を作ろうかと奥様から提案もされているという。今はコロナ禍で会えないが、その絆は強い。

佐藤さんの好みのワインはアメリカのジンファンデルという深い赤ワインとのことだが、自分で作りたいのはこの地ならではのワインだという。

「ワインは農産物だと思っているので、その土地のぶどうで作られたワインがその土地の料理に最も合っていると思います。雑味のない、自然を感じられるワインを作るというのが私のこだわりです」

〈 佐藤さん利用 〉

花巻市施策

- 空き家バンク利用者への費用助成制度
- 花巻市新規就農者支援事業
- 花巻市ワイナリー整備等事業補助金
- 花巻市農商工連携事業補助金



地元産の旬の素材を生かし 常に真剣勝負の料理を出したい

働く

HITOUZUKAN

process

Xニユーのな イタリア料理店

高瀬心平さん イタリア料理ルマーカ

Xニユーがないと聞いて驚いた。毎日新鮮な地元の食材を仕入れ、その食材を生かして料理するというスタイルで、特にディナーはお任せコースがあるだけというイタリア料理ルマーカ。

「その時々でどんな仕入れができるかによって料理を考えます。うまくいった時はイメージの150%のものが作れます。そのライブ感が楽しいし、自分にとっての刺激ややりがいになっています」

と話すのはオーナーシェフの高瀬さん。仕入れた食材を新鮮なうちに提供するため、基本的に予約のみにしているとのこと。余して翌日また使うことを嫌い、その日必要な分だけ仕入れるためだ。ランチはパスタを選べる形とのことだが、それも徹底して素材にこだわる。

「黙々と厨房にいて作るだけでなく、直接伝わるお客様の反応も見たいですよ」と高瀬さん。調理するだけでなく、できるだけホールでサービスするという。



Profile

高瀬心平さん

- 1984年花巻市生まれ。
- 2018年11月、オーガニックなイタリア料理ルマーカ開店。ルマーカとはイタリア語で「かたつむり」という意味。
- イタリア料理店 Lumaca
岩手県花巻市大通り2丁目3-15

2020年取材（内容は取材当時の情報）

process

東京やイタリアで 修業し故郷へ

花巻で生まれ育った高瀬さん。祖父母がかつて中心市街地で経営していた履物店は古くからの市民には馴染みだが、それをご両親の代で閉めたのだという。高校を卒業した高瀬さんは東京へ出た。

もともと食べることが好きだったためにホテルのレストランやバーに就職し、厨房で仕事をする。さまざまな飲食業で働くうちにイタリア料理に目覚めた。いくつかのイタリアンレストランに勤めながら、27歳ごろから機会を見つけて何度かイタリアへ修行に出ている。ビザの関係で1回あたり長くても2〜3ヶ月だったそうだが、仕入れに同行させてもらったりして、現地の食堂で厳しく教えられたことが今も生きているのだそう。

イタリアで修行し、日本で仕事をしつつ「いつかは自分の店を」と考えていた時、故郷花巻から声がかかった。現在のルマーカの場所です。イタリアンレストランを経営していたお父様の友人から「そろそろ引退しようと思うので店を引き継いでくれないか」という話だった。いずれは好きな山登りや釣りなどができる自然の中に帰ろうと考えていた高瀬さんにとって悪い話ではない。その申し出を聞き、これから新しい方向性を検討しようかという時、厨房を担っていたその店の奥様が病気で急逝。思いがけず、2018年急遽店舗を引き継ぐこととなった。

「花巻には高校までしかいなかったため、外まわりのことを知らなかった。だから逆に

地元で店を持つことに興味はありました。ただ、もう少し先と考えていたんです。でも決まっただけは早かったです。引き継いでから開店まで3〜4ヶ月でした」



process

花巻に 新しい味で刺激を 与えたい

なぜ選んだのが南イタリアの料理だったのかを聞いてみた。

「地元の食材を使い、それを活かす調理法に長けていると感じたのです。そして飾らずシンプル。和食に近いかもしれませんが」

「南イタリアに行った時、お婆さんが料理しているような普通の食堂がすごく美味しかったですよ。とにかく味付けもシンプルに素材を活かす料理が衝撃でした」その地にある素材をうまく使え・・・という、イタリアで教わったことを今でも高瀬さんは常に考えている。

岩手は海の幸、野菜、肉など地元産が豊富で食材探しが楽しい。年中様々なものが手に入る都会とは違い、季節によって食材を揃えるのが難しい時期もあるが、それは逆に新鮮な旬のものが手に入るということ。入手できた食材をいかに美味しく料理するか考えるのは楽しい。そして意外料理に対して保守的な地元のお客様に、新しい味を知ってもらい開拓するのも面白い。

「花巻のまちは若い人たちが刺激的な活動を始めていて面白くなっている。で、この店も刺激的な場所でありたいと思っています。そのために常に新しい味にチャレンジしていきたいと考えています」

〈 高瀬さん利用 〉

花巻市施策

- 花巻市まちなか創業支援事業補助金
- 産前・産後サポート事業 産後ケア事業・母子健診支援
- 高校生までの医療費助成事業
- 児童手当



身につけたことを活かして みんなが集まる（まっ）土居所作り

暮らす

HITOZUKAN

process

様々な利用の仕方
体験交流施設

まるでドラえもんのかばん。高橋典人さん（60歳）の話を聞いていると、やりたいこと、できること、そして持っている資格などが次から次に出てくる。はじめは古民家リノベーションによる民泊の話。こうと伺ったのだが、実は単なる民泊ではなかった。

「敷地内にビザ窯も、BBQコーナーもあります。蔵ではワークショップやライブも、セミナーなどできます。蔵の後ろではドッグランができますし、蔵の脇の空き地ではキャンプもできます。集会室では女子会にも利用してもらえます。みんなでいろいろ体験したついでに泊まれるという方が正しいですね」

だからここは民泊施設ではなく、多目的体験交流スペースと名付けているのだ。

「ネイチャーゲーム指導員の資格を持っているので、子どもたちの自然体験にも利用してほしいし、コーヒードリップマイスターを持っていて、この前はドリップ教室を開きました」

やなのうえプロジェクト
高橋典人さん



Profile

高橋典人さん
●1961年花巻市出身。
自然観察指導員やネイチャーゲーム指導員などの資格を持つ。
●やなのうえプロジェクト
岩手県花巻市東和町小友2区80番地

2021年取材（内容は取材当時の情報）

process

マイペースな人生の中で 経馬したこ

生まれも育ちも花巻市。地元の小学校、中学校に入った高橋さんは、高校への進路を決める段階で担任の先生にひとつの提案を受けたのだという。

「定時制高校に通いながら、学校の理科・技術実習助手をやっていた先輩がいたのですが、そのうちのひとりが高校を卒業して就職するため辞めるので、そのあとを引き継いでやってみないか？と声をかけられたのです。それもいいかなと思いました」

高校は地元で、当時定時制があった花巻南高校に入り、昼間は中学校に勤務して夜高校に通う生活を4年間送った。高校卒業にあたり、なんとなく就職しようと思っていたところ、今度は4年間成績が1番だったことで大学を勧められ、これも地元の富士大学に推薦で入ることになった。

「先々の就職のために資格はいろいろ取ろうと、教員免許や図書館司書など取りました。特に司書は当時東北ではこでしか取れなかったのだ」

大学を出たあと、取った教員免許を生かすべく教員採用試験を受け続け、講師などを勤めながら7年越しで中学校の社会科教員として本採用となった。地元花巻や沿岸地方など、他の先生方以上にあちこち転動してきたという。

「いろんな学校で働きたかったので転動願いは結構出しました。独り身で引越しも楽だし。転勤のたびにその町に引越して、その町に住むことを楽しんできました。まちづくりに興味持ったのはその経験からです」

process

人が集まる 場所づくりも

そんな高橋さんが定年前の57歳で教員を早期退職したのは、やりたいことがあったからだという。

まちづくりに興味を持ち始めた高橋さんは、その後の人生でカフェ経営を目指すようになる。

「昔は花巻のまちにもたくさんのカフェがありました。今はほとんどなくなってしまうので、自分でやってみようかなと。人が集まる場所づくりもしたかったし、マイペースで残りの人生を送れるとも思ったので（笑）」

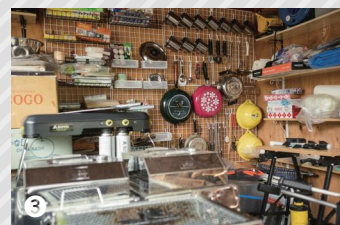
ところが教員を退職した途端に社会教育指導員へと声がかかる。まなび学園で3年間勤務しながら店舗物件を探していた高橋さんは、花巻市で行われたリノベーションスクールや東和町のまちづくり団体と関わる中で、今住む古民家の存在を知ることになる。

「なんか面白いことができそうだと、3日で購入を決め、リノベーションには地域おこし協力隊の方々などにも手伝ってもらいました」

2021年3月で社会教育指導員も辞め、今はパンの販売や道の駅「とうわ」でコーヒーを淹れながらこの場所を運営する。

自由にマイペースで生きてきた高橋さん。その中で身につけてきたことを活かせるこれからのことを楽しそうに語りながら、美味しいコーヒーを淹れてくれた。

- ① カフェ経営のためにドリップマイスターの資格も取ったという
- ② 宿泊スペースの床は自分で貼ってフローリングに
- ③ BBQやキャンプ用品も1式揃っている
- ④ BBQスペースにある自作のピザ窯
- ⑤ 多目的に使える「蔵しっく」
- ⑥ 木漏れ日の中で飲むコーヒーは美味しい



〈 高橋さん利用 〉

花巻市施策

● 空き家バンク制度



はなまきのまちのイントランスとして 人と人が出会うゲストハウスも



ゲストハウス mein
福田一馬さん

process

笑顔で迎える
「まちのイントランス」

ゲストハウスの扉を開けると、福田さんのトレードマークである笑顔が迎えてくれる。古書店風入居している1階のカフェでランチやお茶する時も、宿泊した夜、カフェスペースを兼ねたリビングのテーブル席やカウンターに座っても、そこにはもれなく福田さんの笑顔がある。

「mein (メイン)」という名前は「まち (mach)」の「イントランス (entrance)」の「宿 (in)」を組み合わせて名付けられた。その名の通り、ここはこたけで完結する宿ではなく、花巻のまちを体験する宿となっている。

「簡単なつまみは提供できますが、まちに出て行けば美味しい店がたくさんあるし、シャワーはあるけど風呂に入りたいければ花巻には12もの温泉があります。花巻のまちも合わせてmeinです」

格安で宿泊できるゲストハウスとして、オープン以来この3年、旅の外国人や若い人たちのコミュニティを築いてきた。



Profile

福田一馬さん
●1984年 盛岡市出身。
●ゲストハウス mein
岩手県花巻市末広町 2-13
●花巻食堂
岩手県花巻市大通り1丁目 7-36

2022年取材（内容は取材当時の情報）

process

海上自衛隊から
地域おこし協力隊員へ

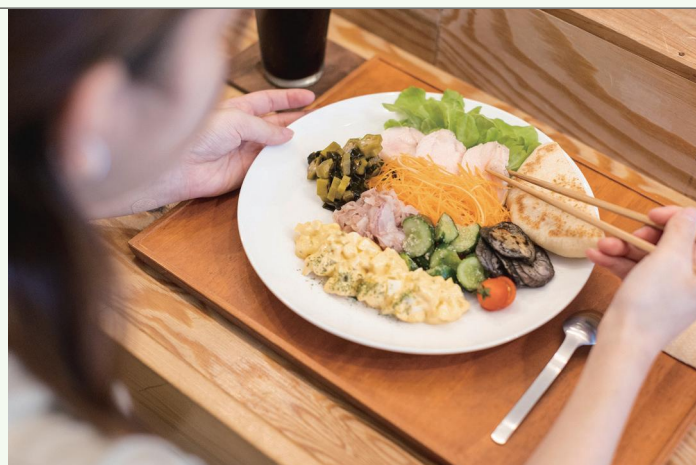


地域おこし協力隊員として北九州でのリノベーションスクールにも参加し、花巻家守舎が手掛けた小友ビルやマルカンビルにも関わった。その過程で、その活動に興味を持った全国の若い世代の人たちが花巻市にやってくるのを目にし、花巻を訪れるプレーヤーたちと花巻のプレーヤーたちを結びつけるゲストハウス経営を思い立った。人と人、他地域の人が花巻と触れ合える場所が必要だと思ったのだ。



process

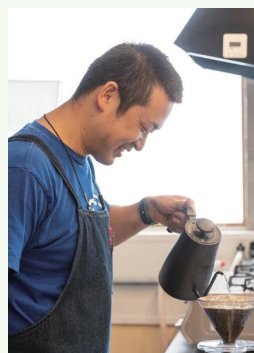
多様な交流ができる
文士の拠点に



ゲストハウス店舗にできる物件を探し、営業をやめた古い旅館の物件が借りられた福田さんは、時折リノベーションワークショップで参加者の手も借りながら、ほぼひとりで全面改装を行い、地域おこし協力隊員としての3年の任期中だった2018年8月にゲストハウスMoinをオープン。それから3年、全国からやってくるプレーヤーたちや外国からの観光客を含む若者たちとも、併設のリビング兼カフェで語り合うコミュニティを形成しながら、花巻のまちの案内も行う。このリビングを使ったトークショーやミニライブ、映画鑑賞会などにも場所を貸し出すなど、知名度が高まるに従い文化の中心的存在になってきた。

コロナ禍で宿泊客が激減する中、2020年秋からはリビング壁面を貸し出し、本の販売を行う風人堂が営業を開始。本目当ての集客や、カフェでの特製たまごサンドやドリンクメニューの充実により、営業努力が続いている。

地域おこし協力隊OBとして、リノベーションによる事業者として、アグレッシブに活動する福田さんは、花巻のまちの活性化のために情報も発信し続けている。



〈 福田さん利用 〉

花巻市施策

- 花巻市移住支援金
- 空き家バンク制度
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業

福田さんは盛岡の出身。高校卒業後海上自衛隊に入隊している。倍率が高い一般書候補生に合格することができ、幹部候補生として任官したのだった。

「13年の任期中、全国各地13回転動してきました。もともと体を動かす仕事をしたかったし、転動も多かったけれど、独身の頃はあちこちに行けることを楽しんでました」

幹部任官後、同僚で同郷の奥様と結婚。翌年長男が生まれた。幹部として、今後の昇進も期待できたが、その後もあちこちへの転勤は続く。

「腰を落ち着けて家族と一緒に過ごすことが自分と家族の幸せじゃないかなと考えました。このまま海自にいればそれは無理かなと」

次の道を探していた時に、偶然花巻市の地域おこし協力隊員募集を知る。その仕事がどんなものかわからなかった福田さんはいろいろ調べた。

「ミッションはリノベーションまちづくりということでしたが、それも何のことなのか知りませんでしたから、ネットなど駆使して調べました。その結果面白そうだなと」

30歳で退官し、2015年10月に一家で花巻市へ移住、赴任した。



宮沢賢治が好きすぎて とうとう花巻へ移住

暮らす

HITOUZUKAN

賢治文庫
塩野夕子さん

process

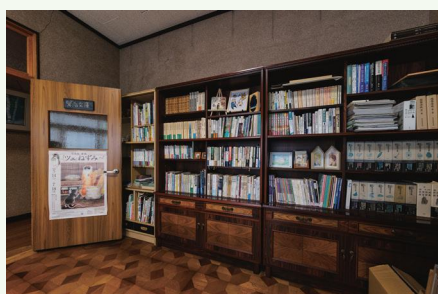
賢治ファンが
集まれる場所を

大迫町の市街地の一角、まちに溶け込む住宅の前に「賢治文庫」という、黒板でできたかわいらしい看板がある。普通の民家の玄関先だ。店でもないし、施設っぽくもない。呼び鈴を鳴らすと、笑顔で迎えてくれたのが塩野さんだった。

玄関からすぐの広い部屋に案内されると、部屋の真ん中に大きなテーブルがあり、一方の壁は天井近くまで書棚になっている。並んでいるのはほとんどが宮沢賢治関係の本。作品の本ばかりではなく、専門の研究書もたくさん。賢治研究のバイブルとして認識されている高価な「校本宮沢賢治全集」も全巻揃っている。

「自分で買った本もあるのですが、賢治文庫を始めることを知った人からいただいたりしました。賢治さん好きの人たちが集まれる場所を作りたいと思って、自分が借りて住んでいる家の1部屋を解放することにしたのです」

塩野さんはニコニコ話し始めた。



Profile

塩野夕子さん
●1984年新潟県生まれ。
●賢治文庫
岩手県花巻市大迫町大迫第3地割161
早池峰と賢治の展示館2階

2022年取材（内容は取材当時の情報）

process

宮沢賢治との 運命の出会い

母親の実家がある新潟で生まれ、父親の仕事の関係で埼玉県上尾市に移り住み、幼稚園時代から過ごした塩野さん。高校時代には部活をしていなかったため、学校と自宅の間にある図書館に毎日のように通っていたという。

高校卒業後、専門学校を経て就職したものの、仕事の大変さや人間関係、長距離通勤で疲れてしまった。そんな中、出会ったのが宮沢賢治だった。

「プラネタリアムで『銀河鉄道の夜』の短編アニメーションを見たのがきっかけで、その世界観に感動しました。それまでは教科書の『やまなし』ぐらいしか知りませんでした。こんな世界だったんだと」

さっそく通い慣れた図書館で賢治関係の本を借りて読み始め、賢治ならではの自然への視点や表現に魅せられていった。

「父親が山好きで、小さい頃よく連れていってもらったことも思い出しました。もしかしら私は山が好きで賢治さんに惹かれたのかもしれないと気がついたのです」

2016年、塩野さんは初めてのひとり旅、初めての東北旅行で花巻を訪れる。賢治の故郷に興奮していたという。それから何度か花巻を訪れるうちに、花巻図書館に行く機会があった。

「地元の図書館にも賢治さんの本はあったのですが、花巻図書館はその規模が段違いで。花巻に住んでしまえばいつでもこの本たちを読むことができるかもしれないと思ったのが移住の最初のきっかけです」



process

地域おこし協力隊 迷わず移住として

行動は早かった。2017年には東京の有楽町にあるふさと回帰支援センターでいろいろ相談。そのうち花巻市が地域おこし協力隊員を募集していることを知る。仕事内容はステイプロモーション。説明会や現地視察などを経て、塩野さんは「宮沢賢治を通してプロモーション」を提案し、採用となった。

2018年10月、晴れて花巻市に赴任して移住となった。主に花巻市が運営し、市民ライターの花巻を紹介するウェブサイト「まきまき花巻」のディレクターを務め、3年間の任期間に「宮沢賢治花巻まち歩きファンブック」「まきまき花巻紹介冊子」を制作。任期終了と同時に大迫の家を借りて引っ越し、賢治文庫を立ち上げた。

「賢治文庫を始めたきっかけは2019年の賢治祭でした。全国各地からいらした賢治ファンと話すことがとても楽しかったのです。しばらくして知人から賢治さん関係の本をいただき、自分だけで読むのではなく、花巻を訪れる賢治ファンの人たちと共有したいと思いました」

協力隊任期中はアパートに住んでいたが、人を呼べるところで住みながら「文庫」を作りたいと貸家を探し、自分が好きな山（特に賢治も好きだった早池峰山）が近い大迫に住み始めた。

現在は宮沢賢治記念館に勤めながら、休日には全国からやってくる賢治ファンを賢治文庫に招き入れている塩野さん。今日も花巻で賢治とともに生きている。

〈 塩野さん利用 〉

花巻市施策

● 空き家バンク利用者への費用助成制度



この場所の土で育った 種を採る



うたか自然農園
福島吉隆さん

process

家を持って
信用を得られる

見渡す限りの田園風景の中に福島さんの家と田んぼがあった。
「すぐ近くに畑もあります。今の時期は大根、カブが育っています。ニンジンやジャガイモ、ピーマン、ナス、万願寺とうがらしなど、およそ30種類の野菜を作っています」
終始ニコニコしながら語るのは、花巻に移住して4年目の福島さん。無肥料、無農薬の自然農法で作られた作物は、マルシェなどにも出品していて、定期的に直接購入するファンがいるほどの人気だ。
岩手に来たのは6年前。肥沃な畑を探して北上川沿いの畑を探し、目指す農業の方法を紙に書いて役場などにプレゼンして歩いたという。ようやく見つけた紫波町の畑も、自然農法への地主の理解を得られず、2018年に定着できたのが花巻だった。
「空き家バンクで家を買いました。それが大きかった。家があることで信用されて畑も借りやすくなりました。地域の人たちも優しいながらも優しくない人ばかりです」



Profile

福島吉隆さん
●1982年神奈川県生まれ。愛媛県でのミカン農家手伝いを経て、和歌山県で自然農法を学び、奥様詠子さんの故郷岩手へ。紫波町で2年間農業を営んだ後、2018年に花巻へ移住。
●うたか自然農園
岩手県花巻市石鳥谷町大潮川16 地割99-2

2023年取材（内容は取材当時の情報）

process

自然農法との 出会い

生まれたのは神奈川県だが、父親の実家が農家でよく遊びに行っていたという。その時の印象は「農家の匂い」だったそうだ。その時は「農業とはそういうもの」という理解の仕方だった。高校を卒業後、山小屋をはじめとして様々な仕事でお金を貯めては旅に出ていたという。インド、ネパール、タイ、カンボジア……。それぞれの地に1〜2ヶ月ほど滞在した中で目にしたのは、自分の畑で作った作物を道端で売っている農家の姿。自給自足を基本とした、そんなシンプルな生活に憧れた。ちょうどその頃出会った農学者福岡正信の本で自然農法を知ることとなる。

地元の神奈川県で知合った岩手県盛岡市出身の奥様詠子さんと結婚後、愛媛県のミカン農家の手伝いを経て、和歌山県の橋本自然農苑で2年間自然農法を学んだ。その間に息子が生まれたこともあって、詠子さんの故郷である岩手へ移住しての就農を計画したのだという。

福島さんが師匠と仰ぐ橋本自然農苑の橋本進さんは「土がきれいになれば世界は平和になる」を唱えた。「人間の幸福は大自然から謙虚に学び、大自然の摂理と調和した『自然尊重』『自然順応』の生き方から生まれる」という教えをもとに、「土の力こそが大切」は今福島さんの農業のコンセプトになり、さらにその土で育った作物から種を採って循環させている。

「この地で採れた種は、ここの気候を記憶してくれるのです」

野菜に人格を感じ作物が持つ力を語る。



process

土に 足で感じる農業

春から秋はひたすら農業に従事し、冬はアルバイトする生活。そんな暮らしも花巻ならではの便利さがあると言う。

「近くのたくさんさんの温泉でそれなりに求人もあるし、除雪作業もあるから仕事には困りません。除雪は降雪次第で勤務時間が不規則で大変ですが（笑）」

農閑期の冬にも遠くに働きに行く必要がないというのは、家族を大切にしている福島さんにとって大きい。子どもも田園地帯の自然の中で伸び伸び育っている。地域の集まりや近隣の農家との付き合いも4年ですっかり馴染んでいる。ただ、やはり気になるのは周囲の農家の高齢化。もっと若い人たちの就農を期待しているが、周辺では農地の大規模化のための土地改良計画が進む。

「確かに機械や化学肥料、農薬などを使って生産効率化を図るには良いのかもしれないが、無肥料、無農薬で手間をかけて農業をやっている人間としてはどうしようという感じです。それと、田んぼの大規模化は、そんなに広い土地を最初から耕作できない若い人の就農のハードルを上げる。遊休農地がなくなると新規参入できなくなることが心配です」

収穫よりも採種の方が自分にとって大事だという福島さん。野菜の花も愛でながら、土に触れ、足で感じる農業の仲間を増やしたいと願う。これから藍を育ててみたいと、また笑顔で語ってくれた。

〈 福島さん利用 〉

花巻市施策

- 花巻市新規就農者支援事業
- 空き家バンク利用者への費用助成制度
- 地域子育て支援センター
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業



東北に身を置いて、自分を作る

育てる
暮らす

HITOUZUKAN

process

地域に
溶け込みながら
オリジナルな
空間

株式会社 VISION OF FASHION (V.O.F.)
代表取締役
菊地央樹さん

「皆さん、優しすぎるぐらい優しいですよ。外から来た人間も気持ちよく受け入れてくれて。子どもも地域の人たちが自分の孫みたいに育ててくれて。それから食材のクオリティとか、温泉とか、地域が持つ文化とか、贅沢ですよ。県外から知人が来ますけど、みんな感動して帰っていきますよ」

鉛温泉の奥、藤三旅館と豊沢川を挟んだ対岸にこんな集落があることを、恥ずかしながら初めて知った。農地で適度な間隔を空けながらそこそこ家が立ち並んでいる。集会所があったので、もしかしたらここが鉛の集落なのかも知れない。南を眺める鉛温泉スキー場が見える迫力ある風景。

13年住んだ大阪から移住し、この築100年の古民家を改修して、自宅を兼ねた、モードファッションのセレクトショップを始めたのが菊地さんだ。のどかな風景から1歩店に入って目に入るシックな空間に驚いた。



Profile

菊地央樹さん
●1988年岩手県釜石市生まれ。
●大阪に13年住み、京都と東京で洋服店経営。それぞれの場所の文化や環境に合わせたアイテムを揃えたり、店づくりを行ってきた。それぞれの店は店長に任せ、2021年花巻市鉛に移住。
●kune
岩手県花巻市鉛字中野 31-1

2023年取材（内容は取材当時の情報）

process

場所の文化を
生かし
理念や思想を
大切に

菊地さんは釜石市出身。高校卒業後、1年間の川崎での工場勤務を経て、ファッションに関わる仕事がしたいと、縁があって大阪へ。ファストファッションの店舗に勤務しながら、趣味で友人たちとストリートスナップ（街で見かけた人たちの服装や着こなしをスナップ写真として撮影すること）を撮ったりしているうちに、どんどん仲間が増えていったのだそう。

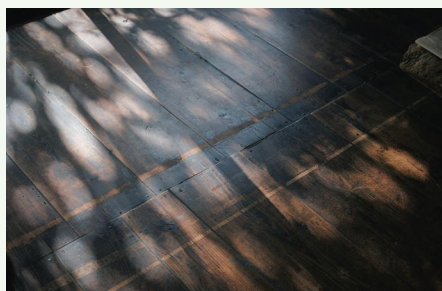
23歳の時に、大阪の「おしゃれ」を代表する一角であるオレンジストリートに自分の店を持つ。そこにはそれまで一緒に活動していた仲間たちが集まってきた。

「あの通りで個人経営の店はあまりなかったと思います。仲間たちのおかげで人気の店となり、最終的には大阪市内に3店舗持ちました」

そのうちに、高校時代に通っていた盛岡のセレクトショップのオーナーとコラボしようということになり、盛岡の店を吸収する形で京都に京町家を利用して店「乙景」を出した。のちに東京原宿に「CONTENT TOKYO」も。最後には大阪の店を京都に集約し、東京との2店舗体制となった。

「京都の町屋は暗いので、その暗さを生かした店にしています。東京は目まぐるしく変わる街。ベースになる店にしようというコンセプト打ったばなしのインテリアにしています。流行に乗るのではなく、理念や思想を大事にしながら、その地に合った店作りを考えています」

そんな菊地さんは、2021年家族とともに花巻に移り住み、2023年4月から新たに「Kune（食寝）」をオープンさせた。



process

暮らしと地域の
文化の違いを
取り扱う

東京や京都のスタッフとの意思疎通はどうしているのかという問いに対し、「顔を合わせるのは年1回です。ここに集まって焚火したり」との返答が帰ってきた。もちろんネットでコミュニケーションは取れるが、それでもその答えに驚いた。

「実際に行こうと思っても、ここからは空港も新幹線の駅も車で30分ぐらいだし、東京は3時間ちょっと、京都も神戸空港使用なので便利です」

それでは、なぜ花巻だったのだろうか。「東京や関西は根っこが違います。やはり自分のアイデンティティは東北だなと思いました。とはいえ釜石の実家は津波で跡形もないし。花巻はここならではの文化が色濃く残っている。自然への畏れが文化のベースになっているから優しい。民芸とファッションを組み合わせたいと考えていますが、素材としてホームスパンや裂織もある。面白いところです」

花巻の店「Kune」のコンセプトは「日は好日」なのだそう。一日一日を大切に、季節の移ろいを感じながら自然とともに、生活とともにあるものを扱っていく。「Kune」の営業は春から秋の土日・祝日（12月下旬〜2月）までは休業。それ以外の時間は会社経営実務のほか、この場所をさらに充実する活動をしたと語る。

「競い合いの現代社会の中で、こは育てる、生み出す地域にしたいですね。地域全体をアートヴィレッジのようにつくられたら最高」

〈 菊地さん利用 〉

花巻市施策

- 花巻市移住支援金
- 子育て世帯への住宅取得助成制度
- 空き家バンク利用者への費用助成制度
- はなまきファミリー・サポート・センター
- 高校生までの医療費助成事業
- 児童手当



人と人のつながりを大事にしながら サードプレイスを作る



花巻市南部、俗に笹間街道と呼ばれる県道103号線沿いで、旧花巻バイパスだった県道298号線の少し西側に新しい家が立ち並ぶ一角がある。その一番道路に面した1軒がCAFE MISSING PIECEだ。ここを経営する瀬川幸子さんが好きな絵本「MISSING PIECE」(邦題「ぼくを探しに」シェル・シルバスタイン 著・倉橋由美子 訳 講談社) から名付けたというかわいなお店は、2021年12月にオープンした新しいカフェ。美味しいコーヒーとキッシュが人気で、他にも白砂糖やマーガリン、ショートニング不使用のお菓子、バターや卵を使わないスコーン、自家製全粒粉ロールパンなど、安全、安心なメニューが並んでいる。オープンしてからまだ日が浅いが、すでに常連さんたちが次から次へとやってくる人気店となっている。それは店のおしゃれな雰囲気やメニューのおいしさはもちろん、瀬川さんの人柄もまた人を惹きつけるから。

process

市内では希少な
キッシュの店

CAFE MISSING PIECE
オーナー
瀬川幸子さん



Profile

瀬川幸子さん
●福島県生まれ。
●ビジネスホテル勤務のあと、バリスタになることを目指し東京でのカフェ修行を経て、花巻出身のご主人と結婚と同時に夫の実家へ。2021年12月に自宅1階でカフェオープン。
●CAFE MISSING PIECE
岩手県花巻市桜町1丁目391-6

2023年取材 (内容は取材当時の情報)

process

自分の店を
夢に抱いたまま
花巻へ

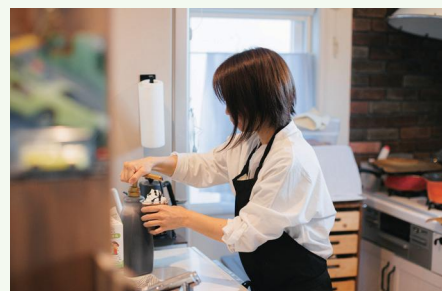
「ずっととサービス業をやってきたんです」と言う瀬川さんは福島県白河市の出身。高校を出てから地元のビジネスホテルでフロントの仕事をしていたそうだが、日本初のイタリア認定バリスタとなった横山千尋さんの存在を知り、自分もバリスタを目指したいと2007年に上京。輸入食材のチエーン店で経営するカフェに勤務したとのこと。そんな時に花巻出身のご主人と出会う。

「いつか自分の店を持ちたいと夢見ていたんですが、イメージしていたのは北関東あたりだったんですよ」と笑う瀬川さん。初めて新花巻の駅に降り立った時には、駅前に何もない風景にびっくりしたとのこと。

「当時は市内にカフェがそんなに無くて、『観光地なのにもったいないなあ』と思っていました。東京時代にイメージしていた地域とは違いましたが、花巻でもいずれカフェを始めたいという気持ちは変わっていませんでした」

しばらくご主人の実家で暮らした後、2015年に現在の場所に自宅を新築する。その時点で、最初から1階をカフェにするつもりで設計してもらったとのこと。

自宅新築により、夢を叶える場所ができた。後は開店までの資金を準備したり、カフェの仕事をおさらいするために、子どもたちが手を離れる年齢になるのを待って、北上にある全国のカフェチェーンに勤め始めた。キャリアを持つ瀬川さんは同店のマネージャーに。なんと販売個数で同店を全国1位にまで押し上げた。



process

お客様との
距離が近い
関係性が
楽しい

結婚後独学でコーヒーコーディネーターやカフェマイスターの資格も取り、満を持して自分の店をオープンしたのはカフェチエーンで5年間勤めた後。オープンにあたり、高価なエスプレッソマシンや、自家焙煎機まで揃えたのだという。

「エスプレッソマシンはびっくりするくらい高価でした。でも私にとってこれが命なので。自家焙煎機は、買ったもののまだ使えてません（笑）。いつか自家焙煎やりたいですね」

オープン後は、カフェチエーン時代のお客様やママ友コミュニティの友達など地元知り合いが後押ししてくれたと瀬川さんは語るが、それはいつも笑顔で垣根なく人と接する瀬川さんだからこそ。イベント出店で知り合った人たちも含め、お客様の8割がリピーターというところにそれが現れている。誘われて入った花巻青年会議所（JC）仲間も店の常連にもなっているという。

そんな、お客様との距離が近いという関係性が楽しいそうだ。

「自分の将来の夢を抱く年頃になった子どもに、親が夢を叶えているのを見せられて良かったなと思っています。家族には全面的に理解と協力をお願いしています」

なるべく体に優しい県産食材を使いながら、人と人との繋がりを大事にしていきたいと語る瀬川さん。仕事と家庭以外の「居場所」サードプレイスで、「自分を探しにきて欲しい」と微笑んだ。

〈瀬川さん利用〉

花巻市施策

- 花巻市起業家支援センター
- 児童手当
- 高校生までの医療費助成事業



花巻市農業研修支援事業

【農政課】TEL 0198-23-1400

市外から転入して新規就農し要件を満たす方には、研修期間中の家賃を支援（月額最大 20,000 円）

花巻市新規就農者支援事業

【農政課】TEL 0198-23-1400

市外から転入して新規に就農し要件を満たす方には農地賃料を支援（最大 50,000 円）、経営開始 3 年以内の方には農業機械や資材等の経費を支援（最大 800,000 円）

育てる RAISE

子育て支援

妊産婦交通費支援

【地域医療対策室】TEL 0198-41-3586

市内に住む妊産婦が県内の産科への通院等に要する交通費を支援（最大 20,000 円、ハイリスク出産の場合最大 50,000 円）

産前・産後サポート事業

産後ケア事業・母子健診支援

【健康づくり課】TEL 0198-41-3609

助産師や保健師等の専門職による産前・産後の相談支援、産後の健診費用支援（最大 5,000 円）、新生児の聴覚検査費用支援（最大 4,000 円）

こんにちは赤ちゃん訪問と 子育て相談

【子育て世代包括支援センター】

TEL 0198-41-3500

生後 4 か月までの子どもの家庭に保健師が訪問、成長確認と健診・予防接種などを説明、子育て相談も随時受付

病後児保育室

【こども課】TEL 0198-23-2063

傷病の回復期で集団生活が困難な、市内の生後 6 ヶ月から小学校 6 年生までの児童を専用施設にて一時的にお預かり

地域子育て支援センター

【こどもセンター】TEL 0198-21-4388

就学前の子どもを持つ親子が遊んだり、情報交換や子育て相談ができる子育て支援センターを市内 6 ヶ所に設置

周産期医療確保対策事業費補助金 （就職支援）

【地域医療対策室】TEL 0198-41-3586

市内産科医療機関へ新たに就職した産科医師、助産師、看護師に就職支援金を支給（最大 200 万円）

起業支援

花巻市起業化支援センター

【商工労政課】TEL 0198-41-3536

起業・創業支援、専任コーディネーターによるフォローアップ

花巻市まちなか創業支援事業補助金

【商工労政課】TEL 0198-41-3539

中心市街地の空き店舗等を活用して新たに事業を始める方に、改装費と広告宣伝費の一部を補助（最大 50 万円）

花巻市ワイナリー整備等事業補助金

【農政課】TEL 0198-23-1400

ワイナリーの新設・増設や果実酒等の開発・販路開拓に対し、補助金を交付（最大 500 万円）

花巻市農商工連携事業補助金

【農政課】TEL 0198-23-1400

市内事業者の花巻産農畜産物を活用した加工品開発や加工施設整備に対し、補助金を交付（最大 200 万円）

就農支援

新規就農者育成総合対策 （就農準備資金）

【農政課】TEL 0198-23-1400

県が認めた機関等で研修を受けた方が研修後 1 年以内に就農する場合、就農準備を支援（年間最大 150 万円、最長 2 年）

新規就農者育成総合対策 （経営開始資金）

【農政課】TEL 0198-23-1400

新規就農者が要件を満たす場合年間最大 150 万円、夫婦で就農し要件を満たす場合年間 225 万円を支援（最長 3 年）

雇用就農資金

【農政課】TEL 0198-23-1400

農業法人などが新規就農者を雇用し研修を実施する場合、農業技術や経営ノウハウの習得を支援

花巻市施策



「花巻暮らし！」

花巻市では移住者に対してさまざまな支援を行っています。制度を利用して、花巻で暮らしてみませんか？詳しくは各担当部署にお問い合わせください。



移住・定住ポータルサイト
「いいトコ花巻」
施策一覧ページ

働く WORK

就業支援

花巻市 UII ターン者就業奨励金

【商工労政課】TEL 0198-41-3536

県外から転入して市内事業所に就業した方に 25 万円支給

花巻市移住支援金

【商工労政課】TEL 0198-41-3536

東京圏から転入し対象となる事業所に就業した方等に 100 万円（世帯）60 万円（単身）支給 ※ 18 歳未満の子ども 1 人につき 100 万円を加算

保育士の再就職支援金

【こども課】TEL 0198-41-3149

市内の私立認可保育施設に再就職し要件を満たしている方に、10万円を貸付（1年間勤務で返還免除）

保育士の復職支援

【こども課】TEL 0198-41-3149

市内の保育施設へ再就職を希望する方に、復帰に向けたトレーニングや職場紹介・見学など実施

住む *LIVE*

移住支援



子育て世帯への住宅取得助成制度

【定住推進課】TEL 0198-41-3516

親と同居 / 近居または市指定のエリアに住宅を取得した場合 30万円の奨励金を支給。県外から転入した子育て世帯の方が住宅を取得する場合、最大 200万円を支援

空き家バンク利用者への費用助成制度

【定住推進課】TEL 0198-41-3516

県外から転入し空き家バンクを利用して住宅を取得する場合は最大 200万円、賃貸する場合は最大 100万円を支援。39歳以下または県外からの移住者が空き家バンク物件を取得した場合 30万円の奨励金を支給

新規就農者への住宅取得助成制度

【定住推進課】TEL 0198-41-3516

市外から転入して就農する方が住宅を取得する場合、最大 200万円を支援

子育て世帯向け地域優良賃貸住宅

【建築住宅課】TEL 0198-41-3566

中学生以下の子ども又は妊娠している方のある世帯で年収が一定以下の場合、子育て世帯向け地域優良賃貸住宅に入居可

空家等解体活用事業

【建築住宅課】TEL 0198-41-3567

解体後に住居や店舗などを新築する場合、空家等の解体費の一部を補助（最大 100万円）

はなまき夢応援奨学金

【学務管理課】TEL 0198-41-3144

保護者の住所が市内にあり要件に該当する場合、大学等に進学する方に、学資金を無利子で貸与（月額最大 20,000円）

ふるさと保育士確保事業補助金

【学務管理課】TEL 0198-41-3144

市奨学金を返還しており市内認可保育所等（公立保育所を除く）に勤務している保育士の返還月額の半額を補助

ふるさと奨学生定着事業補助金

【学務管理課】TEL 0198-41-3144

市奨学金を返還しており該当する大学等を卒業し、市内に住所がある方の返還月額の半額を補助

介護人材確保事業補助金

【長寿福祉課】TEL 0198-41-3578

市奨学金を返還しており新卒で市内の対象介護事業所等に採用され、要件を満たしている方の返還月額の半額を補助

周産期医療確保対策事業費補助金（奨学金返還支援）

【地域医療対策室】TEL 0198-41-3586

市指定の奨学金制度を返還しており市内の産科に産科医師、助産師、看護師として勤務した場合、返還月額の半額を補助

介護職員家賃支援事業補助金

【長寿福祉課】TEL 0198-41-3578

介護福祉士等の対象資格を有しており新卒で市内の対象事業所等に採用され、要件を満たしている方の家賃の半額を補助（月額最大 21,000円の補助）

保育士の家賃補助金

【こども課】TEL 0198-41-3149

市内の私立認可保育施設に就職し要件を満たしている方に、月額家賃の半額を補助（月額最大 21,000円の補助）

保育士の保育料減免・補助

【こども課】TEL 0198-41-3149

市内の私立認可保育施設に就職し要件を満たしている方に、第1子保育料の月額1万円の減免または補助を実施

保育士の就職支援金

【こども課】TEL 0198-41-3149

短大、専門学校などの学校を卒業後1年以内に市内の私立認可保育施設に就職し要件を満たしている方に、20万円を貸付（1年間勤務で返還免除）

はなまきファミリー・サポート・センター

【ファミリー・サポート・センター】

TEL 0198-24-5055

子育てをお手伝いして欲しい方と、お手伝いしたい方をマッチングする組織。事前登録により生後3ヶ月から小学校卒業までの子どもを預けることが可能

第3子以降副食費等負担軽減補助金

【こども課】TEL 0198-41-3149

市内に住所のある世帯に対し、第3子以降の保育所、幼稚園等にかかる副食費等の全額を支援

子育て応援在宅育児支援金

【こども課】TEL 0198-41-3149

保育所等を利用していない第2子以降3歳未満の子どもを養育している家庭に月額10,000円を支給

児童手当

【地域福祉課】TEL 0198-41-3575

中学校卒業までの子どもを養育している家庭に児童手当を支給

児童扶養手当

【地域福祉課】TEL 0198-41-3575

ひとり親世帯や、実質的に父または母が不在状態にある家庭に対し、子どもが18歳になる年度の3月まで児童扶養手当を支給

高校生までの医療費助成事業

【国保医療課】TEL 0198-41-3584

高校生までの医療費について、保険診療を受けたときの自己負担額の一部または全額を支援

ひとり親家庭医療費助成事業

【国保医療課】TEL 0198-41-3584

ひとり親家庭に対し、高校生までの子どもと扶養者に係る医療費について、保険診療を受けたときの自己負担額の一部または全額を支援（扶養者は所得制限あり）

教育支援



花巻市奨学金

【学務管理課】TEL 0198-41-3144

保護者の住所が市内にあり、経済的な理由により高等学校以上への修学が困難な方に無利子で奨学金を貸与

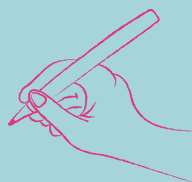
この地に流れる澄んだ水を飲み
この地で採れた生命力ある米や野菜を食べ
この地に湧く滋味豊かな湯に浸かり
広い空を見
優しい風に吹かれ
木々や花々に包まれ
厳しい冬のあとに爆発する春を愛で
乾いた空気の夏とカラフルな秋の中を歩き
連綿と続いてきた文化を感じる生活

そこに生きる人と会う
その力を支える人と語る
そこでエネルギーな人とつながる
そんな生活が待っている



いいトコ花巻

つながるひとがここにいます。



【移住・定住 Guide Book】 花巻市役所：岩手県花巻市花城町9番30号 tel. 0198-41-3516 hp. <https://www.city.hanamaki.iwate.jp>